

城西大学薬学部 白瀧 義明 (SHIRATAKI Yoshiaki)

## クズ *Pueraria lobata* Ohwi (マメ科 Leguminosae)

夏から秋にかけて野山を歩いていると、紫～紫紅色の蝶形花をつけた大型のつる性草本を見かけます。全株に粗毛があり、茎は長くのびて他物にまきつき 10m 以上にもなります。本植物が漢方薬「葛根湯」の構成生薬である「葛根」の基原植物となるクズです。

クズは日本各地、朝鮮半島、中国の山野に普通に見られるつる性の多年生草本で北米にも帰化しています。葉は互生し長柄があり、3 出複葉で小葉は長さ 10～17cm のひし形ないしだ円形で、時に浅く 3 裂しています。夏の暑い日中、良く、葉が反り返っていますが、「クズの裏見返し」といわれ、強烈な太陽の光を避けているようです。下面はやや白く白色の毛が密生し、夏～初秋のころ葉腋から 15～18cm になる総状花序を出し、紫～紫紅色の蝶形花を多数つけ、秋の七草の一つとしてもよく知られています。クズの名は大和の国（現、奈良県）国栖くずに由来し、この地方の人々が根から得られるデンプンを京都に売りに来たことによるそうです。又、クズは他にも有用で、茎から得た繊維は織布に用いられ、葛布と称して現在も製造され、花を乾燥したものは葛花と云い、二日酔いの妙薬として中国、台湾で使用され、我国では健康食品として販売されています。根は長大でデンプンが多く、皮をはぎ、適当に切って乾燥したものをカッコン（葛根、*Puerariae Radix*）とよび、漢方の要薬の一つで、熱を冷まし首の後ろや背中がこわばるのを治す働きがあるとされ、葛根湯（構成生薬：葛根、麻黄、桂皮、芍薬、甘草、生姜、大枣）などに配合されます。葛根湯は漢方で発汗、解熱、緩和薬として用いられ、ふだん健康な人の頭痛や肩こりをともなう



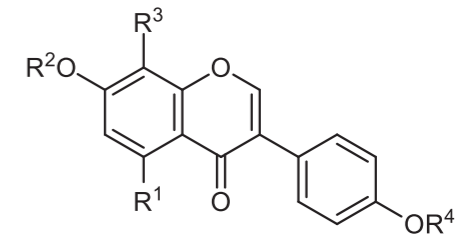
写真1 クズ (花)



写真2 クズの裏見返し



写真3 生薬：葛根



	R <sup>1</sup>	R <sup>2</sup>	R <sup>3</sup>	R <sup>4</sup>
daidzein	H	H	H	H
daidzin	H	glc	H	H
puerarin	H	H	glc	H
genistein	OH	H	H	H
formononetin	H	H	H	CH <sub>3</sub>

図1 成分の構造式

感冒の初期によく効きます。体表が実して汗ばむことがなく悪寒、発熱、頭痛がして首筋や背中がこわばるものに用いられ、感冒のほか乾性の皮膚病、小児はしか、神経痛、結膜炎、大腸カタル、じん麻疹等きわめて応用範囲が広いものです。また、根から得たデンプンをクズデンプン *Amylum Puerariae* とよび、滋養剤や錠剤賦形薬とされます。我が国の生薬の生産量は少なく、韓国からの輸入が主ですが、最近是中国からの輸入が増えています。クズの成分は 10～14% のデンプンのほかイソフラボノイドの daidzein, daizin, puerarin, genistein, formononetin 等が知られています。これらのイソフラボノイドには、女性ホルモン作用が認められていますが、内分泌攪乱化学物質としても知られています。